

# 想創奏

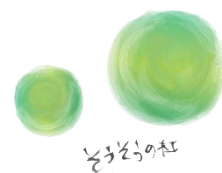
そうそうそう No.57

ピンちゃん  
の石像が  
できました



城東区鳴野東3-2-26  
社会福祉法人そうそうの杜

# 想そうそうそう創奏



## No.57 Contents

### ■あつという間の1年を。

荒川 輝男 …3

### ■關 宏之さんエッセイ集

關 宏之 …4

### ■2023年活動報告 ～地域活性化のための取り組み・全体行事～

聖賢まつり 水谷 周平 …7

今福祭り イ ジュンホ …8

城東祭り 西崎 俊介 …9

SARUGAKU 祭 板見 善子 …10

そうそうの杜大運動会 国本 英浩 …11

路上作品展について 駒澤 美羽 …12

### ■権利擁護・権利侵害防止に関する法人内でのアンケート実施について

真頼 正施 …13

### ■ストレスチェック結果報告

出口 祐也 …19

### ■ドキドキ

和田 数子 …20

### ■お世話になっております 地域のみなさまへのインタビュー

出口 祐也 …22

### ■各種告知

おもいの国のアリスオープンチラン …23

社会福祉法人そうそうの杜メディアリスト …24

### ■寄付にご協力いただきありがとうございます

…25

# あっという間の1年を。

理事長 荒川 輝男

2023年もうあと20日程度を残すのみとなった。長いコロナのトンネルから抜けたら社会そのものが明るくなるかと期待していたが、現実是非常に厳しかった。

世界各地での戦争・紛争・独裁など、地球で存在している人々が、明日の命が保証されない恐怖のどん底で夜も眠れない子供や避難民が多く存在していることが数え切れないほど報じられ、平和な地球であってほしいという当たり前の願いが最も困難な課題となってしまっている。

また、気象異常が顕著となりこれに伴う様々な災害も巨大化し、自然の猛威の中で人間の存在が危ぶまれる状況にもなっている。

さらに、我々の日本に焦点を当ててみると、これまた混乱の極みである。政権を担っている政党の政治資金の問題、東京オリンピックや関西万博等のイベントに伴う巨大な利権に群がる政治家集団の醜い姿が随所に露呈され、国のかじ取りを行う政治家を始め国会議員や時の偽政者達が、私利私欲に走るのみで国民の方を向かない政治ばかりが目立った年でもあった。

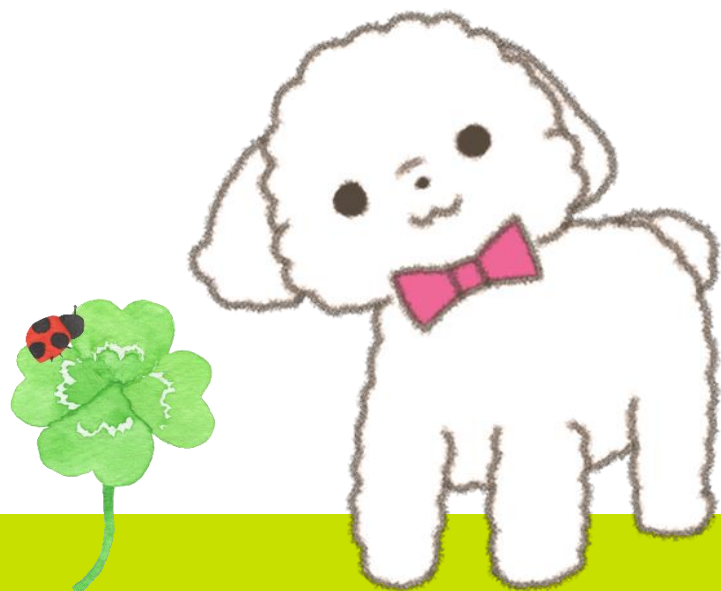
法人の動きでは、4月に6か所目の建物(びんの郷)の使用開始、それに伴い新規事業として、心(こころ)(自立訓練)のスタート、庵を蒲生4丁目から移転、伝(児童デイ)の移転を行った。

12月には、藤原静江さんの遺贈を受けて三重県志摩市の御座白浜に「海の家 藤原荘」の購入し、利用者や関係者が海水浴など夏場を中心としてレクリエーションの拠点として使用できるようになった。

外国人労働者ミャンマーからの特定技能(介護)で1名受入(現在外国人労働者はミャンマーから11名うち1名は正職、9名は介護福祉専門学校在学中、ちなみに7名は来年4月から介護福祉士としてスタートする予定)、韓国から1名(正職)、スリランカ(来年4月から福祉専門学校入学予定)、未曾有の人手不足を解消する目的で3年前からミャンマー人留学生をアルバイト採用し、介護福祉士養成を目指してきたが来年4月には戦力として活躍してくれるめどが立った。

また新型コロナウイルスによる影響もほとんどなく事業運営にとって大きな支障はなく新年を迎えることができそうだ。

来年も利用者の皆さんと共に着実な歩みを進めていけるように地道に取り組んでいきたい。



# 關 宏之さんエッセイ集

關 宏之

## お兄ちゃん

私が住む集合住宅は、150戸あって、レストラン、ラウンジ、カラオケルームなどの公共の場所もあります。ここでの私の役割は、30坪ほどある庭のお守をすることで、当初関わっていた人たちが高齢を理由に徐々に抜け、いつの間にか私だけになってしまいました。野菜を作っていた畑が宅地になるというので、丁度よかったのではないかなどという人もいます。夏は夏らしく、夕顔やアサガオをいっぱい咲かせて、ハイビスカスやカンナ、アメリカ芙蓉などおよそ20種類程度の花が咲いていました。今はバラが盛りです。ちょっぴり、クリスマス風の飾りもしました。レストランの真ん前にあるので、食事をしている新しい入居者の方が、庭仕事をしている私に「通いで頑張っているんだね。ちゃんと管理してな!」などと鼓舞されたりします。

10月ごろに撒いた種も芽が出て、チューリップ100球、アイリス80球、その他の草花で、春には花いっぱいになるぞとほくそえむのです。

この住居で、私が特に気に入っているのがちょっと大きめの風呂で、20人くらいは入れますが、コロナの規制で一度に5人の利用となりました。いつもは苦虫をかみつぶしたような爺さんが、猫なで声で孫に「じゃぶじゃぶ」の手ほどきをされることもあります。「できるではないか……」と思ったりします。

夕食を終えて7時20分が私の入浴の定刻で、順次、10歳、5歳年上の風呂友が来られます。それぞれにお一人さまで。私は、ここでは若い(?)のです。先輩たちと何だかんだと他愛のない風呂場談義をして、8時には次の方々にバトンタッチです。

ついこの間のことです。10歳年上の足立さんという方が「お土産があんねん」といって、京都のすぐきや柴漬けの包みを頂きました。とても温和な方で、お亡くなりになったお嬢さんは、私が一時お世話になった授産施設を利用されていたということでした。若いころは登山をやっていたといわれるだけに、頑丈な体躯の方です。

「実は、妹と三千院に行ってきたんや。行きたいというから。主人を亡くしたばかりでな。」ということで、妹さんは、私と同じ80歳前。「妹が嫁ぐ時に、かなり強引に結婚を勧めたんや、しかし、苦勞したようや、悪いことをした。」としみじみと仰った。三千院まではバスを乗り継いで、徒歩で行ってきた、「遠かったが いい京都 大原三千院 やった。ちょっと肩の荷が降りました。」と言われました。ほんまにいい兄ちゃんだ。

老いた兄さんと妹さんともみじの三千院、ほっこりとした情景が浮かびます。



ズワイガニの季節がやってきた。方々でカニ旅行やカニ料理の宣伝が聞こえます。私の田舎では「松葉ガニ」といいますが、各地では、加能ガニ（石川県）、越前ガニ（越前港、三国港、敦賀港）、舞鶴カニ（舞鶴漁港）、間人ガニ、津居山カニ、柴山ガニ、香住ガニ、などなど称し、みな同じズワイガニなのと思うのですが、美味しさを競っています。

その昔、隠岐の島に行ったときに、利用者のお兄さんが隠岐の水産高校の先生だということで、山盛りの「松葉ガニ」を頂いたことがありました。こんなにたらふくカニを頂いたのはこの時だけでした。昔、福井の大学で集中講義をする機会があって、年末や年明けに行っていましたが、「カニが目当てでっか？」といわれて、やむなく変更したこともありました。凶星でした。

田舎には、川に棲息するモクズガニを食べる習慣があります。よく弟と、近くの大川に網を仕掛けて一度に30枚も獲れたこともありました。これを細かく叩いてペースト状にして、豆腐に絡ませてお汁にし、野菜を加えて醤油じたての「ガンじる」を作る。もうこんな料理は食べられないのですが、とても逸品でした。四万十川の辺りでは、郷土料理だと聞きました。

ところで、「しおまねき」というカニをご存知でしょうか。潮が引いた泥干潟では、オスたちが一斉に盛んに大きなハサミを振り、メスの気を引く「ウェービング(waving)」と呼ばれる求愛行動を繰り返しますが、愛嬌のある仕草で有名です。和名の「シオマネキ」は、この動作が「潮が早く満ちてくるようにまねいている」ように見えるためについた名前だそうです。彼らにすれば血統・子孫存続に向けた必死の行動なのです。

何が言いたいかということ、大きなはさみを鼓舞するのはいいが、退くときにははさみを豊んで自分の掘った穴にもぐるのです。若いころに、よく上司とぶつかったのですが、ある時上司が言ったのは、「カニは、自分の身の丈に合った穴を掘る、大言壮語するのはいいが、自分の掘った穴を忘れるな。掘った穴に帰ることも考えろ。」といわれたことがあります。余程腹に据えかねたのでしょうな。身の程知らずで、前に進むことは考えても、退路までは想定外でした。だけど、生意気な人には「黙れ!」と言えるのですが、おとなしい人に「もっと生意気になれ!」といっても、無理な相談です。カニのシーズンが到来すると思ひ出す一言です。



今年は柿のなり年のようです。当方の庭の柿の枝には実がたわわになって、朝からメジロやシジュウカラ、ヒヨなどの小鳥もたわわです。時々カラスも交じっています。

柿は東アジアの温帯地域に固有の種といわれ、古く中国では 2500 年も前の「礼記」にすでに記載があり、日本でも有史以前から栽培されていたといえます。「柿が豊作の年には医者要らず」といわれているように、栄養分豊富な果物です。

沖縄と北海道を除く全土で栽培され、果実としてはもちろんですが、柿渋から取り出されたカキタンニンの効用から、塗料（木に塗る）、染料（衣服を染める）、和紙（和紙に塗る）、日本酒の製造、魚網や釣り糸、民間薬、化粧品などに使われていました。石油化学製品の発達によりその需要が減退していましたが、田舎の家々の庭先には必ず柿の大木が植わっており、わが家の柿の木は、幼いガキたちのジャングルジムでした。「柿の木坂の家」という歌があります。懐かしい風景です。

「朝顔に つるべ取られて もらい水」の江戸中期の女流俳人（晩年には剃髪して加賀の千代尼）の「しぶ（渋）かろか し（知）らねど柿の初ちぎり」という句があります。柿には、甘柿系と渋柿系があり、甘柿には富有、御所、次郎など、渋ガキには西条、四溝、愛宕などがよく知られています。子供のころ、私を含む悪ガキたちは、そこら中の柿を盗み食いしていましたが、渋ガキにあたることも多々あり、口の中にシブが居座った様を、「ざまーみろ、ケツケツケ！」と喜ぶ悪魔の哄笑にさらされたようで、もう柿など食うものかといった心境になったものです。経験から言えば、美味しそうにみえてもたいていの柿は渋柿で、渋ガキを干し柿にして保存し、飢饉に備えたのだといわれています。柿の木は女性を象徴する木だといわれます。その昔、嫁入りの際に実家から柿の木の苗（接ぎ穂）を持ってきて、それを嫁ぎ先の庭の柿の木に接ぎ木をする習慣があったそうです。

わが家では、ばあちゃんが、ビニール袋に渋ガキを入れて、菰（こも）でぐるぐる巻きにして風呂の湯に浸して、次の日に「さあ、食べてみなはい。」と出してくれた湯抜きの柿は美味しかった。渋抜きにはアルコール抜き、凍結法などがあるようですが、干し柿もいわばその一つです。以前、この時期になるとお隣から徳島産の愛宕柿（あたごがき）を頂戴しました。立派な渋柿で、これをむいて、ひもをかけて軒先につるします。「柿むく手母のごとくに柿をむく」（西東三鬼）という光景もこの時期のもので、母は、これでもかというほどの渋柿を丁寧に向いては父が軒先につるしました。その中の 2 連だけは正月のお飾りにとビニールをかぶせて干しますが、それ以外は、つるしたままにします。お正月までにはきれいになくなります。両親は、「鳥たちのごちそうだ。」と悦んでいました。

庭の柿の実の小鳥たちが食べ尽くし、葉っぱが散った後の梢が寒そうです。いよいよ師走です。



# 2023年活動報告 ～地域活性化のための取り組み・全体行事～

本年も地域活性化のため、近隣のお祭りへの参加や、南鳴野商店街での夜店・フリーマーケット開催、また法人内の全体行事など、多数の取り組みを行いました。その中の一部を紹介いたします。

## 聖賢まつり

水谷 周平

- ・日時:2023/07/29
- ・場所:聖賢小学校
- ・販売品:ホットドッグ 300食 | 食 200円
- ・売上:60,500円(換金時に貰った金券(600円)を含む) 利益:24,169円

### ・内容

例年は唐揚げやフライドポテトといった揚げ物を販売していたが、全体的な食品の価格の高騰や、去年のように揚がるのが追い付かず、早くあまりに利用者さんと一緒に行く時間が減ってしまうことを危惧し、今年はホットドッグの販売を行った。初めての試みではあったが、ソーセージを焼く、パンにキャ

ベツを挟む、ソーセージを挟む、ケチャップをかけるといった感じで工程を分けることで、手伝いに来てくれた利用者さんも大きく戸惑うことなく取り組んでくれていたように感じる。

売れ行きとしては去年の唐揚げやフライドポテトに比べると、17時以降も長蛇の列が出来るような感じではなく、お客さんが途絶えるタイミングもあったが、テンポ良く売れ19時過ぎには300食完売となった。常に行列ができるほどの大人気とはいかなかったが、忙しいタイミングもあれば、落ち着いているタイミングもあり、丁度良い忙しさであった。おかげでスタッフ側も余裕があり、基本的には利用者さんのペースに合わせて一緒に調理や販売に取り組み、また交代で祭りを回ることも出来た。

前述した通り販売品をホットドッグに変更したことで利用者さんも取り組みやすくなった点や、利用者さんのペースに合わせて行えた点が今回の特に良かったところだろう。地域の祭りに参加する意味合いを考え、来年も利用者さんと一緒に楽しんで参加していきたい。



## 今福祭り

イ ジュンホ

- ・日時:2023/7/22
- ・場所:今福小学校
- ・販売品:やきとり 3本 200円、アイスクリーム 100円、クッキー&パン(Lianの杜)
- ・売り上げ:124,590円 利益:31,975円

### ・内容

「今福祭りのやきとり」といえば「そうそうの杜のやきとり」の勢いで今年も昨年の続きでやきとりを出店する。それ以外にもアイスクリーム、クッキー、パン、フロズンを出店したが、電圧関連の問題があり、フロズンは販売できなかったのが残念であった。

自称「雨の男」あるいは「雨の女」と言われ、当日の天気を心配している人もいたが、空は晴れ、気温も丁度いい、祭りを楽しむのに完璧な天気であった。

今年は昨年よりもっと行列ができ、予定した販売量が早い時間に売り切れになってしまったのでせっかく並んでくださったお客さんに申し訳ないと思いつつ、30メートルほどの長い列でも並んでくださったお客さんが残念な気持ちを持たず、祭りを楽しむように来年は販売量を増やすべきだと思う。

昨年は本格的にお客さんが増えてくる前から利用者とスタッフは販売の準備に超集中になり、自分らが販売している焼き鳥の味見すらできなかった人が多かったが、今年は本格的に販売する前に味見ができるよう、熱心に焼き鳥を皆に配って味見ができていたのが嬉しかった。個人的には味見を通じて自分が売ろうとしている焼き鳥の味に自信をもって一層楽しめた販売ができたと思い、利用者だけではなくスタッフも普段できていない大事な経験ができて有益な時間であった。

昨年よりコロナウイルス感染症が落ち着いていく中で行われた今福祭りは、まだマスクをつけている姿も見られたが、ご自由にマスクを外し家族・友達・仲間と笑顔を交わしつつ楽しむことができた祭りだった。(イ)





## 城東祭り

西崎 俊介

- ・日時:2023/08/05
- ・場所:城東小学校
- ・販売品:焼きそば 200 円 焼き鳥 200 円 と  
うもろこし 100 円 キャラクターすくい 100 円 輪  
投げ 100 円 ジュース 100 円 アイス 100 円  
フローズン 100 円 たません 150 円
- ・売上:379,950 円 利益 96,786 円

・内容  
コロナ感染症がピーク時より落ちつき感染者の  
人が減少傾向に見られ、各地の様々なイベントや  
祭りの規制緩和により 4 年ぶりの開催を実施する  
ことができた。

地域の方々も屋台を出す中そうそうの杜は 8 種  
類の販売を行った。15 時より祭りは始まったが 2 時  
間ほど客足はそこまで伸びずに日が落ちてきたころ  
に徐々に来場者が増え始め全体的に列ができ始め  
てきた。4 年ぶりというのもあり客足が読めない中  
焼き鳥や焼きそばは予定販売数を大きく上回り買  
い足しを行っていき何とか 20 時まで販売を行うこ  
とができ完売をすることができた。お祭り自体も来  
場者が多くとても活気が出ていたと実感できた。利  
用者の方々とも一緒に販売がすることができそうそ  
うの杜でも盛り上がったと思える。利用者も楽しく  
笑顔でできていたと思ひ余暇を満喫してもらえてう  
れしい限りである。

最後に今年の祭りを実施できて地域の活性化に  
つなげることもでき楽しい時間を過ごせたと思う。来  
年、再来年とコロナ感染症、インフルエンザなどの  
予防をしっかり行い祭りを開催していき地域の活性  
化につなげられたらと思う。



# SARUGAKU 祭

板見 善子

第10回 SARUGAKU 祭 2023 にダンスで出演しました。前回まではグラウンドで模擬店と共に舞台が設営されていましたが、今回は城東区民センター2階のスギタレストホールで演舞を行うことになっていました。

印象的だったのが、出演前の静まりでした。出演前には舞台袖でスタンバイしていました。そうそうの杜 20周年記念や聖賢文化音楽祭、その他のイベント等で行ったことはある場所でも、いざ舞台に上がるとなると緊張感がこんなにも違うものかと。舞台裏の廊下までは雑談したり、手を動かしたりしていた人も、裏に回ると一瞬にして静かになりました。裏で騒ぐと前の演者や実行委員の妨げにもなることは皆さん分かっていたのだらうと思います。それでも、舞台の方を見てじっとしたままの人や、下を向いている人…これはまずいかなあと。ダンスが始まったら何人かは裏に戻らないといけなくなるかなあと思っていました。

ところが、舞台ではその人たちが笑顔で練習の時よりも大きく動いており、より前に出ようとしていました。その光景に吹き出してしまいました。その時、その時をめいっぱい楽しんで、その力を発揮していたと思います。

うまく踊れることは自信に繋がるかもしれないけど、それよりも「こんなに楽しいんだよ」ということのほうが、心を動かすことなのではないかなと思います。次の機会には、より多くの利用者・スタッフ共に楽しみと緊張感を味わってみたいです。



# そうそうの杜大運動会

国本 英浩

今年で18回目となる、そうそうの杜大運動会が10月28日(土)に開催された。例年よりも遅い開催となり、寒さの影響も考えられたが絶好の運動会日和となり、今年は約250名の参加者が競技への参加、応援などで会場も熱気に包まれていた。

午前中は個人競技、午後から団体競技と後半になるに連れチームが一丸となっていくように各チーム盛り上がっていた。個人競技では新競技が2種類入っており車イスに乗りサイコロを振って出目のコーンまで回るコロコロコーンやラグビーボールを持って障害物を超えていくラグビー競争とあり、その場はみんなの盛り上げで競技は上手くいったが工夫、改善しなければいけない点は多々あった。やはり競技はシンプルでわかりやすいものが一番であると感じた。

昼休みはチャミ先生の歌や応援合戦、ダンス、メダル授与等盛り上がりもあったが少し詰め込みすぎたかと感じる。

午後からは大玉転がし、綱引き、スタッフリレーと一競技一競技手に汗握る展開となった。運動会の最後の締めにも今年も理事長対決を行うことになった。今回は何故か綱引きとなり圧勝することが出来た。色々反省する点はあったが終わり良ければ総て良しではないが自分の中では気持ち良く今年の運動会が終わることが出来た。

今年は何のチームも凄い盛り上がりを見せてくれており、スタッフ、利用者が一丸となっていた。スタッフが楽しまない利用者を楽しめない、スタッフが真剣に楽しんでいる姿を見て利用者も感化されるようにチームが一体となっており、どのチームも優勝を目標に頑張っていた。

優勝した白チームおめでとうございます!



# 路上作品展について

駒澤 美羽

今年は去年と違い、外部の方々が多く参加してくれました。事業所でも去年よりもたくさんの方をご応募いただきありがとうございました。今年は作品のキャプションカードをつくったり、背景を黒に塗装することによって作品がより目立つようしたりと工夫しましたが、予想より数が多く去年の黒く塗っていない分も出したりとしたのでそこは反省しております。やはり外での展示なので風やその作品の重さによっては飛んだり、ホッチキスが重さに耐えれず落ちたり、破れてしまったりということが起きました。来年は展示の仕方をもっとレベルアップできればと思っています。

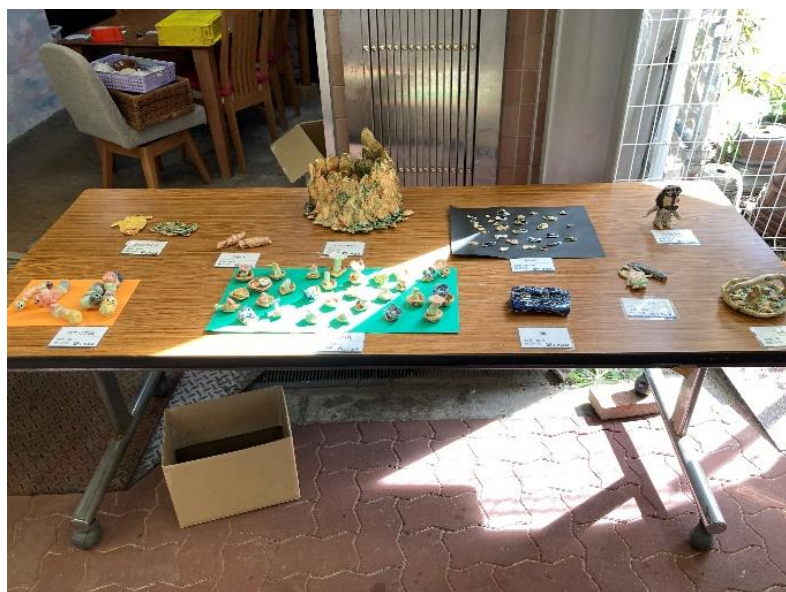
作品に関しては生きるをテーマにしましたが、何でもつなげられるため結局あんまり意味がなかったのかなあと。中にはちゃんとそのテーマに沿った深い意味が読み取れるものもあり面白く感じました。芸術というものは自分の感情やもっと本能的なもの、言葉に表せないなにかというのを実物としてこの世に表せる唯一の方法だと私は思っております。それが表現できたとき素晴らしい作品ができるのではないかと考えています。

その中でも書道作品が今年は1位になりました。紙に金がまいてあったり字の大きさやバランス、味、とても個性があり書道の可能性、もっとアレンジもできるということが知れました。自分の思いを字に乗せれるんだなあと。

絵画ではちぎり絵やポスカ、マジック、絵の具、面白い砂と絵具混じったような素材を作っていたり、いろいろな小さな絵をパッチワークのように一つの段ボールに張り付けたりと多様なものが見れました。みんなこれを作っている時が楽しそうなのが読み取れていいなと思いました。

立体では、今回陶芸以外でも、紙で作った新幹線や、編み物、縫物、折り紙など去年よりも幅が増えました。立体は表だけでなく裏にも面白さがあるのもっと全体が見えるような形での展示がしたかったのですが、それでも細かな作品や、その人らしい個性が見えたり、温かさを感じました。

全体としては去年よりも素晴らしい作品が増え、展示もバージョンアップできたので次は投票の仕方や展示数の制限などまた、来年はもっと良い路上作品展にしたいと思っています。



# 権利擁護・権利侵害防止に関する 法人内でのアンケート実施について

真頼 正施

最初に、2015年に大阪手をつなぐ育成会が作成した障害者虐待防止を啓発するパンフレットを紹介する。擁護者・福祉施設従事者からの虐待に、気づきにくいことがある知的障害のある人にもわかりやすく示されたものである。法人として利用者への情報提供は十分であるとは言えなかったため、利用者さんにわかるような方法で提示するきっかけとしたい。

今年度は権利擁護・虐待防止委員会の取り組みとして、以下の通りアンケートを実施することとした。

「権利擁護・権利侵害防止に関するアンケート」

対象：正職員、パートタイマー

無記名

目的：権利擁護の動機づけと虐待防止のセルフチェック

実施期間：1回/2か月



「ネグレクト」とは、ほったらかしにされるという意味です。

これは、**虐待**です。



【このほかにも】  
他の人の前でばかにされる  
仲間はずれにされる  
「おやつ抜き」などの罰がある  
など



【このほかにも】  
給料から知らないお金が引かれている  
自分の携帯電話を他人が使っている  
自分の通帳を見せてもらえない  
など



【このほかにも】  
体をさわられる  
裸の写真やアダルトビデオなどを見せられる  
無理やりキスやセックスをさせられる  
など



なお、定期的の実施したアンケートの集計結果をスタッフ全体にフィードバックすることで、権利擁護の考えや意識が形骸化しないように努める。今回、6月・9月実施した2回分のべ220名の声を集計した結果をまとめ、この場で発表したい。

## Q1.あなたは、利用者が自分で意思決定できるように支援していますか？

回答(選択)	主な記述回答	
している	その人がわかる方法 意向を尋ねる(ジェスチャー、文字、イラスト、Yes No) 選択肢を準備、選んでもらう もっと工夫が必要 「待つ」ことを大事にしている。そういう風土・環境がある 表情や目線に注意、何を考えているのか想像 自分で決める経験・場面を作り。相手の顔色に影響されないように	<p>利用者が自分で意思決定できるように支援</p> <p>■ している 88% ■ していない 12%</p>
していない	法人が決めている もっと待つことが必要、待てない時がある。先回り 内容によってはわかりづらい 選択肢が不足 すべての利用者にはできていない 誘導してしまうことがあるので反省 スタッフの意向が表れてしまっている	

Q1～Q3については、スタッフの利用者に対する支援の根幹にかかわる内容である。特にQ1は意思表出・意思決定について、個人の権利を尊重し侵害することなくかかわることができているか問われている。主な記述回答には、スタッフそれぞれが工夫する具体的な方法や意思を引き出すために必要な「待つこと」の重要性が書き出されている。また、「していない」と回答が12%であったが、自身のかかわり方（先回り・誘導）を反省する内容や、物理的なスタッフの不足などの改善すべき内容が示されていた。建設的な意見が重複して見られた。

## Q2.あなたは、利用者が自分で選択できる活動に参加できるように支援していますか？

している	選択肢の幅が広いわけではない 自分の選んだ外出先・旅行先の話聞く 自らの発信を待っている 言葉のない人の発信を見逃さないように注意	<p>利用者が自分で選択</p> <p>■ している 87% ■ していない 13%</p>
していない	スタッフに限りがありすべてに対応するだけの体制がない 提供できる選択肢・スタッフが足りない スタッフが決めている活動がある 意見を伝えられる人が優先されてしまう 誘導してしまう 経験してほしい活動に誘導・押し付け	

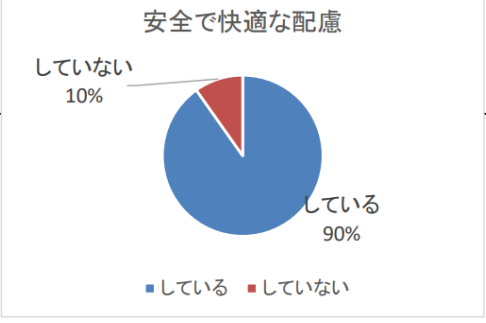
Q2は事業所での支援内容や生活場面で利用者の自己選択・自己決定を問う内容である。Q1と重なる部分も大きいですが、より具体的な支援の手法と内容を自身で考え直すきっかけとする。12%が「していない」と回答しているものの、すべての選択や決定を実行するには、マンパワーの不足は当然であり不可能である。しかし、多くのスタッフは「待つこと」を前提にしたうえで、最大限に努力している。「言葉の少ない人」と「発信力のある人」との差を埋めるための「観察」「注意」の重要性を重視していることがうかがえる。また、「経験してほしい活動への誘導」という意図が表れることもポジティブな意味では、良しとすべきである。

## Q3.あなたは、利用者が自分らしく生活できるように個別性やニーズに応じて支援していますか？

している	理念に基づいてニーズを拾い上げる 発信を待つ 得意なことを伸ばせるように心がけている ほめる	<p>個別性やニーズに応じた支援</p> <p>■ している 88% ■ していない 12%</p>
していない	どうしても見ているだけの人がいる 十分ではない スタッフの指示通りに行われてしまう 関わりやすい人だけになってしまう マニュアル通りになってしまう	

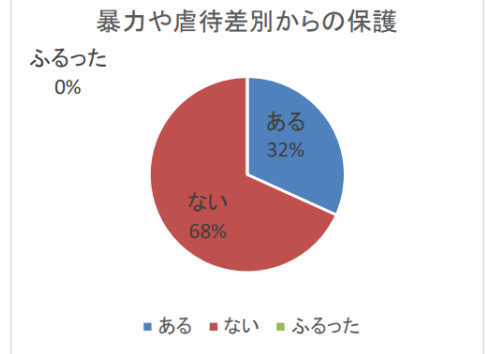
Q3は、利用者の個性やニーズの認知度を問われる設問であり、利用者のことを考える視点・かかわり方・チームとしての役割分担含め個別支援計画の内容をどのように共有するのか…という非常に重要な内容を問われている。法人の理念に基づいた支援と、利用者の発信を「待つ」ことで、その人のニーズを引き出そうとしていることがわかる。ただし、対象となる利用者によってはスタッフ自身の経験年数や関係性が支援の結果に影響を及ぼしている。

#### Q4.あなたは、利用者が安全で快適な環境で生活できるように配慮していますか？

<p>している</p>	<p>エアコン等で室温調整、季節に応じた衣類の準備 作業環境の整備、始業前の点検</p>	<p>安全で快適な配慮</p>  <p>していない 10%</p> <p>している 90%</p> <p>■ している ■ していない</p>
<p>していない</p>	<p>完全に行き届いた環境が良いのか？と疑問に思うこともある 建物が古く災害時を想像すると不十分 利用者同士のトラブルに対応できるスタッフの数として不足 階段が急こう配で危険 騒いだり大声を出す利用者が苦手な利用者も同じ空間で過ごさざるを得ない スタッフが常に居て何でもしてもらえ環境は良いわけではないと思う 壁を叩いた巨体で走り回る利用者がほかの利用者に危険</p>	

Q4は、その結果としてどのような支援体制・環境が提供できているか自己評価したものといえる。いくつかの事業所は、築年数が一定経過しており、必ずしも使い勝手が良いわけではない。そのような中で利用者・スタッフがお互いに折り合いをつけながら過ごしている。人のくらしとはそういうものなのであろうと考える。また、「自立支援」として考えれば、スタッフが常時いる…すべてをしてしまう…ことでエンパワーされない状態が生じることが良いわけではないという意見が書かれていることはうれしく感じた。

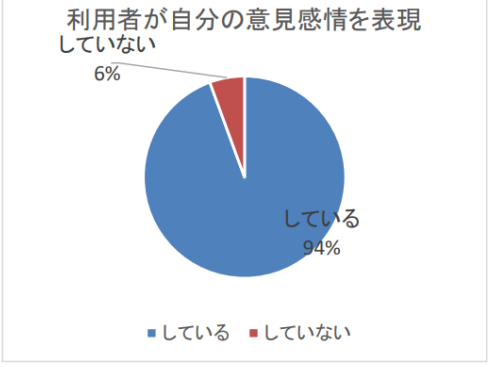
#### Q5.あなたは、利用者に対して感情的になったり、苛立ち暴力をふるってしまいそうになったことがありますか？

<p>ある</p>	<p>疲労やストレスから感情的になってしまうことがある 何度注意してもわかってもらえなかった いらだちを抑えられなかった、口調が強くなってしまふ 利用士司氏のトラブルにいら立っているのか？うまく対応できない 自分にいら立っているのか？わからないことがある 利用者からつねられたり、腹立つと言われたりしてムツとする 叩かれたりつ疲れしたりして感情的になりそうになった 絶対でない、人としてあるべきことではない 送迎が来ているのに、利用者が不調で服を着てくれない、靴下をはいてくれなかったときに思った 意図的に怒りの感情を見せることはある。楽しい・うれしい・悲しい塔も伝えられるようにしている 児童が対象であるが、感情を揺さぶられる言葉を受けることがある。そのときは、その気持ちを本人に伝えるようにしている 特異不得意があるのでおらかな気持ちで接するように心がけている 相手がイライラしている時ほど冷静になり、何が理由か考えるようにしている</p>	<p>暴力や虐待差別からの保護</p>  <p>ふるった 0%</p> <p>ある 32%</p> <p>ない 68%</p> <p>■ ある ■ ない ■ ふるった</p>
<p>ない</p>	<p>感情的になると相手もそうになってしまうと思っている 弱者に対する暴力は許されない環境や他スタッフに対していら立つことがある 感情的になる前にその場を離れる…「無視」につながるのかもしれない 上司や同僚に相談し意見をもらう 客観的に見ていきたい 相手の気持ちを想像する。直前はどのような状態だったのだろうか？ どのような状況でも暴力は許されない</p>	
<p>ふるった</p>		

Q5については、スタッフと利用者との関係性において何らかの軋轢が生じた際の対処の仕方と、人となのかかわりの中でどのようにふるまうことが重要なのかを考え、その結果としてのちの関係性の構築・発展に重点を置いた設問である。「ある」32%という数値は、個人的には予想に反して少ない数字あると感じた。利用者の行動（良い・悪い・正しい・間違い）が直接的にスタッフのストレスサーとなっていることは

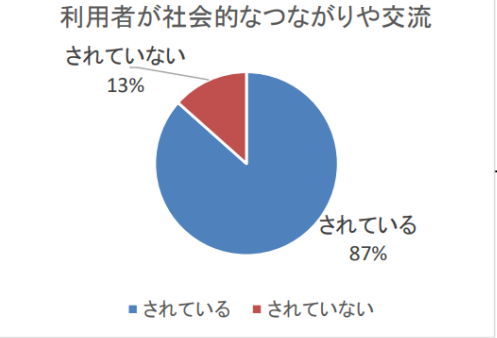
よくあることである。それを原因としてスタッフが感情的になり、挙句の果てに身体的な虐待に至ることは、その人の技術不足と言ってしかるべきである。例を挙げるならば、意図的に感情的な状態を示すことは、エスカレートしそうな行動を抑制し善悪の度合いを伝えることには効果的である。そののち、何が良くて何が良くなかったのか…本人にわかる方法で丁寧に説明することが、支援者としての役割であろう。これらの観点からも、多くのスタッフがそれぞれに基本的な考え方を間違えずに工夫している様子が見えがえる結果である。

**Q6.あなたは、利用者が自分の意見や感情を表現できるように支援していますか？**

<p><b>している</b></p>	<p>個別に話を聞く、ともに楽しむように、傾聴 「待つ」ことで意見や感情をくみ取る、話している最中に割り込まない、意思を表出しやすい環境づくり 本人に聞く・尋ねる 否定から入らずに、まず話を聞いてから対応 利用者の目を見て話を聞く・話す 言葉以外の表情や様子を観察、先回りを反省 スタッフの意見ではなく本人の意見を聞く 何気ない雑談の中から少しずつ気持ちを聞き出すように努めている 十分な時間、答えを待つようにしている 意見や感情を出しやすい雰囲気心掛けている 個々の児童に泡出た個別課題による取り組み 絵カードや書いてもらうことで表出してもらう 本人が嫌がることは無理にさせない 待つ、選択肢の提示 意思の表出が少ない人ほどアプローチを心掛けているが、うまく引き出せているかわからない</p>	 <p>利用者が自分の意見感情を表現していない 6% している 94%</p>
<p><b>していない</b></p>	<p>すべてではない 地域とのつながり・交流として不十分 口論をしない・ケンカしない…が言いたいことを言うてはいけないうとなっていないか懸念ある 意思の疎通が難しい人・パニック状態の様子すから、何を訴えているのか？どうしたいのか？こちらで判断するしかないがなかなかできていない スタッフ中心になっていないか 人によっては誘導している</p>	

Q6はQ1と重複するような設問であるが、Q1に比べると利用者の感情表現・表出を重視する内容である。利用者スタッフの関係性の状態が反映されるものであり、いかに良好な関係を築くことができているのか。支配・被支配の関係性ではなく、対等な立場でお互いに物を言う合うことができているのか。「している」と回答した人が94%であり、感情や今の感情の原因・理由を聞き出すための具体的な方法や読み取る際の観察のポイントが記述されていた。「していない」6%の回答には、スタッフが困っている内容もさることながら、お互いに言い合うことの重要性と誘導・先回りの反省が読み取れた。

**Q7.利用者が社会的なつながりや交流を持てるように支援されていますか？**

<p><b>されている</b></p>	<p>商店街の活動、地域の祭り、ソフトボール連盟、消防訓練、ポッチャ・モルック大会、清掃活動、クラブ活動、発表会広報誌ポスティング、地域の見守り活動 様々な活動・イベントに積極的に参加している 普段からあいさつ</p>	 <p>利用者が社会的なつながりや交流されていない 13% されている 87%</p>
<p><b>されていない</b></p>	<p>法人内の資源で完結してしまうことが多い 業務優先で余裕がない</p>	

Q7については、そうそうの杜の独特な活動としてあげられる地域とのネットワークづくりについての設問である。そうそうの杜と「地域」との関係作りは、他にみられることがない大きな特色である。



まさにこれこそが、そうそうの杜の価値である。利用者が暮らす地域の中で、そうそうの杜がどのように認知されているのか？利用者が地域の人たちとどのようにかかわっているのか？両者の接点づくりにスタッフがどれだけかかわることができているのか？これからどのようにあることが望ましいのか？様々な観点で考えるきっかけになることを希望する。

### Q8.利用者が他のスタッフから人権や権利を侵害されていると感じた時、あなたはどのように行動しますか？

<b>上司に言う</b>	信用できる上司がいる、上司に報告、上司に相談して本部に報告 多くの情報からの的確なアドバイスしてもらえる 自分一人では解決できない 自分で判断できない 法人・組織としての対応が必要だと思うから 支援方法として多様な考え方があると思うから、意図があるのかもしれない まずは伝えやすい上司に言う 状況によって報告先を上司・本部分ける 判断が難しいので上司に相談する 見たこと感じたこと、理由を本人に確認し、上司の相談する 本人に虐待・権利侵害であることを伝え上司に報告する 本人にその場で直接言う 利用者を守るため 行動を改善してもらうため	<p>権利侵害を発見したとき</p> <table border="1"> <tr> <td>上司に言う</td> <td>57%</td> </tr> <tr> <td>同僚に言う</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>本部に言う</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>見て見ぬふり</td> <td>1%</td> </tr> </table>	上司に言う	57%	同僚に言う	25%	本部に言う	17%	見て見ぬふり	1%
上司に言う	57%									
同僚に言う	25%									
本部に言う	17%									
見て見ぬふり	1%									
<b>同僚に言う</b>	現場のスタッフ同士での風通しが良いから 確信が持てないことなのであれば、まず同僚に言い思い過ごしかどうか確認									
<b>本部に言う</b>	信頼できる上司 本部への報連相 風通しの良い職場づくりのため その状況に慣れていない客観的な視点が必要だと思う 情報を一括管理しているから									
<b>見て見ぬふり</b>	言いやすい環境ではないと思う									

Q8については、そうそうの杜の利用者とのかかわり方に加え、法人の在り方や存在価値・ガバナンス体制について問われている。そうそうの杜は社会福祉法人として設立22年を経過し、今後の在り方を模索しているところではあるが、そうそうの杜と城東区という地域の様々な組織とののかかわりが記述回答に表れている。地域の様々な組織とかかわりながらも、他法人の事業所とかかわることがなく、法人内の資源の中で支援ネットワークが完結していることを課題と感じている人がいることは事実である。また、Q8の記述で1名が「言いやすい環境ではないと思う」と回答していた。スタッフと上司との関係性・事業所の中でのスタッフ同士の関係性はおおむね健全であるものの、そうではないという意見があることを忘れてはならない。

2回実施したアンケート集計結果を分析した結果、すべての項目でスタッフそれぞれにおいて権利侵害や障害者虐待と思われる回答はなく、むしろ組織的に改善すべき課題としてあげられていた。答えにくいと思われるネガティブな設問にも率直に回答していると感じられる。また、個々のスタッフが反省と自嘲を加えた表現で記述回答しているところも多いため真意のわかりにくい回答も見られた。多くのスタッフが相手の意思を読み取るため、非言語コミュニケーションについて工夫しつつ苦勞していることがうかがえた。今後の法人内研修において、全体にフィードバックしなければならない要素の一つである。

組織として重視しなければならないことは、今年度実施しているこのアンケートがスタッフ一人ひとりにとって意味のあるものにするることである。アンケート結果の分析とフィードバックが必要であり、今後の利用者支援にどのように生かすのか？スタッフ自身が自律的に考え続けることで、権利擁護の考えが浸透した組織としてその活動を継続できるのだろう。

最後に、冒頭で紹介した大阪手をつなぐ育成会作成の障害者虐待防止を啓発するパンフレットの最終頁を示す。利用者と一緒に虐待について話す際の素材として活用してほしい。

# ぎゃくたい 虐待をされたら、どうする？

## 1. 「いやだ」「やめて」と言う

虐待をされたら、  
まずは「いやだ」「やめて」と  
言ってください。  
がまんなくていいのです。



あなた以外の人が  
虐待されていたら、  
すぐに  
役所か身近な人に  
言いましょう。

## 2. 役所に連絡する

役所には誰かといっしょに行ったり、  
代わりに連絡してもらってもかまいません。  
どうしたらいいかわからないときは、  
身近な人に相談しましょう。

ここに連絡してください

あなたが連絡したことは秘密にされます。

電話やメール、  
ファクス、手紙で  
連絡することも  
できます。



## 3. 連絡した後はどうなる？

誰がどのような虐待をしたのか、  
役所の職員が確認します。  
虐待した人や  
虐待が起きた施設・会社などは  
注意されます。



虐待をした人が  
警察に  
逮捕されることも  
あります。

# ストレスチェック結果報告

出口 祐也

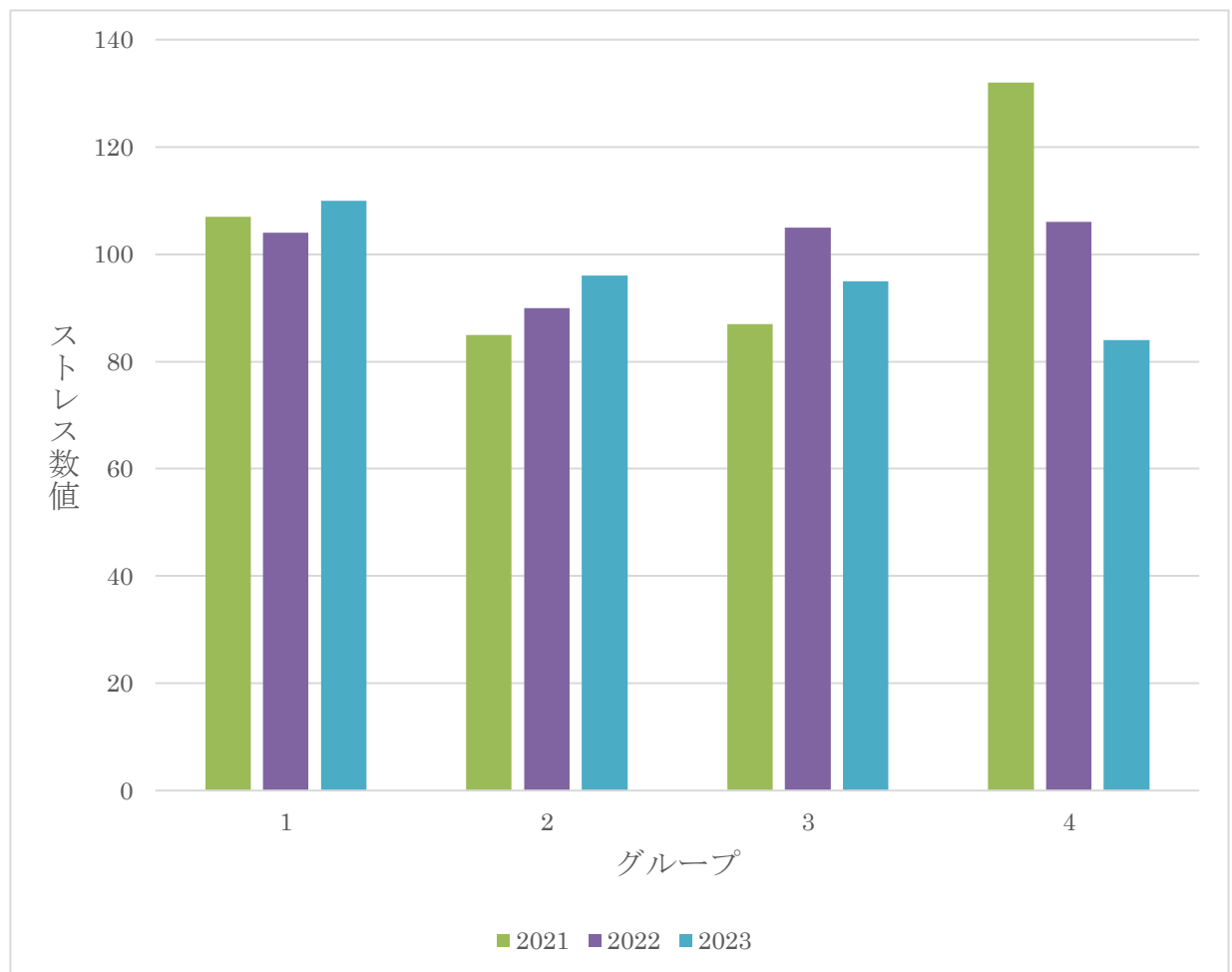
そうそうの杜では健康診断の際に職員のメンタルヘルス対策のためストレスチェックを医療法人朋愛会に依頼して実施しています。専用のマークシートに記入してもらい勤続年数でわけた 4 グループごとにストレスの度合いや要因を測定するようにしています。グループの内訳は 1(10 年以上)、2(9 年以内)、3(5 年以内)、4(2 年以内)です。

グラフに表示されているのが各グループの 3 年間のストレス数値と推移となります。100 を全国平均として、数値が高いとストレスが高い状態となります。1,2 グループに関しては過去よりもストレスが高い状況になっています。特に 1 グループに関しては平均以上でストレスが高い状況となっており、細かく見ていくと正職員のストレス数値が高く、項目としては家族友人、同僚上司のサポートが低いという

ころがほかのグループに比べストレス度合いが高いという結果につながったようです。反対に 4 グループはストレスが低くなっており、項目としては同僚上司のサポートが高く、また仕事へのやりがいも高いところがストレスの低下につながっているという結果になったようである。

法人全体では、全国平均と比べてストレス度合いが高い項目は身体的負担、疲労感、身体的愁訴などになります。ただ、福祉業界はどうしてもそれらの項目は高くなる傾向があり、同業他社と比べると平均程度かそれ以下との結果が出ています。

今後はグループの中でも管理職の人とそうでない人で分けるなどより細かくストレス度合いを測るようになり、数値の低いグループに対しては対策をとるなどしていくことが大切だと感じました。



# ドキドキ

和田 数子

私はTさんと話をするようになって辞書を二冊買い足した。Tさんはふとした拍子に何気なく大切なことを話す。しっかり向き合っていないと聞き逃してしまうので真剣に聴く。それでも全部は聴けていないのが今の私の限界。

彼の職場でどんなことが起こっているのか。私に何を伝えようとしているのか。パートのおばさんたちの会話や職場のスタッフの指示など、人は他愛のない言葉に傷つき、さりげない言葉で傷つけている。Tさんは一緒に働くパートの女性たちの会話そのものを記憶しながらその裏に込められている気持ちを私に質問することで彼女らの心の動きを確かめているのだ。それはテレビドラマの一場面だったりすることもあるが、いい加減な返答はできない。主語は誰なのか、その言葉を使った人は誰なのか、セリフを聞きながらト書きを埋めていく。

「怒られると思って、ここがドキドキすることあるかなあ。何ていうかなあ」

胸に握り拳を当てている。

「仕事で怒られることがあるの？」

「ない」とすぐに返事は返ってきた。

自分ではない誰かが誰かを怒っている場面の話した。

「怒られたら怖い、失敗すると周りが怒るから怖い。怖いという気持ちかなあ」

仕事で誰かが怒られる場面があり〈怖い〉と感じる？ そんなことが職場にはあるのだろう。相手に怖いと感じさせる前に、なんで怒らなければならないか理由を説明することが大切じゃないかなあ。怒る人は誰なのだろう。失敗は誰にでもある。言葉の意味や仕事の内容、他人の気持ちがわからなければ不安だろう。怒られること自体がトラウマになってしまうことだってある。失敗を笑って次に繋がられたら楽しいのと思う。楽しい話をするときは「感動した？」と聞いてくる。「うん、感動した」と返すと、一緒だねという気持ちになる。「感動しない」というと「なんでよお」と笑って理由を聞いてくれる。いつも優しい。

健康維持と体力づくりのために始まったそうそうの杜の体操クラブを見学した時のことだ。ヨガマットに並んだ部員たちの中で体操の試技が理解できていないとき、指導者は側で並んで一緒に動いて示していた。頑張りが足りないときは励ます声が大きくなった。注意していることを示すためにピシッと言葉に勢いがつくこともある。そこには計り知れない愛情があり、築き上げた信頼関係がある。どんなに注意を受けても部員たちは〈怖くない〉し、笑って次にどうするかを考えたり、わざと失敗して関心を向けさせる心の余裕さえある。真面目にやらないと帰りなさいと云われてしまう人もいる。それでもいつも全員が集まってくる。

「体操クラブ、しんどいけど楽しいでしょ。仕事もあんな風にできたらいいのにね」

Tさんと笑いながら話が弾んだ。こんなところで心は育っているんだね。

私はもうひとつドキドキすることばを思いついた。感情がたかぶって心臓がドキドキすることば。〈ときめく〉だ。嬉しさや期待に満ちたドキドキだとTさんに伝えた。好きな人に出会ったり、美味しいものを待っていたり、一生懸命作ったジグソーパズルの最後のピースを嵌めたとき、きっとここがドキドキしていると拳を胸に当てて二人でその意味を噛み締めた。

2023.11.19 和田数子



# お世話になっております 地域のみなさまへのインタビュー

出口 祐也

地域の方へインタビューです。

今回は南しぎの商店街にある魚屋さんの「ふな定」の里深さんに色々質問をさせていただきました。

お忙しい中ご協力いただきありがとうございます。

**出口:** 里深さんやお店について教えていただいていますか？

**里深さん:** 今は74歳で生まれは淡路島です。今の仕事は50年ぐらいしています。10年ぐらい枚方にいて、そのあと今のところで40年ですね。昔は自分の店を持ちたい若い子を2,3人雇っていて、家族も含めたら5人ぐらい働いている時がありました。

**出口:** お店の仕入れや販売について教えていただいていますか？

**里深さん:** 仕入れは福島の中央市場でして、飲食店や店舗で販売しています。飲食店は京橋や布施あたりに売りに行くことが多いです。あとは江坂とか、吹田とか新御堂に沿って得意先がたくさんいますのでそちらの方にも販売に行っています。売れ残りそうなものがあれば、お店を閉めた後に飲食店へ行き売りにいくこともあります。



**出口:** 普段は何をされていますか？

**里深さん:** 365日働いています。年末年始も仕事です。飲食店が開いていて注文があればやっぱり断れません。注文を聞いたらもっていかないといけないですから。今は魚屋の2Fに住んでいます。通うのが楽ですし、もともと2Fに住むつもりでお店も立てていました。昔は別に近所に家を建てていましたが、働きやすさも考えて今はお店に住んでいます。

**出口:** 365日働くのは大変ではないですか？

**里深さん:** 大変かもしれないですが、自分で選んだ道ですから。健康でいつまでも働けたらいいですが、やっぱりいつまでも働くことは難しいと思うので、80歳前後になれば仕事の量減らして自分の体が動く範囲で働こうとか考えています。

**出口:** 今おすすめの魚とかはありますか？

**里深さん:** 今の時期はフグがおすすめですね。店に並ぶこともあります、手間がかかるのでほとんどは飲食店に売ってしまいますね。お店では貝類とかウナギとかが多いですね。



**出口:** 昔の商店街はどうでしたか？

**里深さん:** 商店街はお店出したときは人が通れないぐらいにぎわっていました。お店は40,50店舗ありました。飲食店とかよりは商品を販売するお店が多く、入れ替わりもはげしかったです。魚屋だけでも5店舗もありました。バブルのころは無茶苦茶売れましたね。みんな金額が高くていいものを買ってくれましたから。

**出口:** コロナの時は大変でしたか？

**里深さん:** O157の時もですが、コロナは長く続いて大変でしたね。取引しているお店もつぶれるということがありました。

**出口:** そうそうの杜についてはどう思っていますか？

**里深さん:** そうそうの杜がお店を出したり、イベントをするのはとても良いし、なかなかできないことではないのですごくいいことだと思っています。イベントをいろいろしたらお客さんも来てくれるしとてもいいことだと思います。

**出口:** 今後商店街はどうなってほしいですか

**里深さん:** 商店街も時代の流れや高齢化でやっぱり人が減ってきて商店街はさびれてきていますね。でも夜店とかしたら、この前の夜店は金魚すくいとかマグロのサイコロステーキ、ウナギつかみとかして子供がたくさん来て喜んでくれました。やっぱり子供の笑顔を見るととても元気がもらえますね。これからは若い人が入ってきてお店とか開いてもらって活気が戻ってきたらいいなと思っています。

**出口:** 本日はいろいろお話しさせていただきありがとうございました。

**里深さん:** ありがとうございます。



夜市での金魚すくいの金魚。お客さんでほしい人に渡すこともあるみたいです。

おいもの国にまよいこんだら。

# おいもの国のアリス

Alice in Potatoland



## 南鳴野商店街に OPEN♥



水木金 営業  
11:00 > 16:00



### おいもの国にようこそ♥

南鳴野商店街に、かわいいおいものお店がオープンしました。いろんな姿に生まれ変わって届けられる、おいもの国のおいもたちに会いに来てください♥

### おいもの国のアリスメニュー



フライドポテト/いもけんぴ  
さつまいも&きくいもチップス  
いもボール/ポテトロースト  
やきいも (バター、ブリュレ)  
焼き芋大学芋 andmore...



おいもの国にまよいこんだら。



SNS で最新情報配信中♥

Instagram TikTok を登録してくださいね♥

城東区鳴野東 3-2-15



# 社会福祉法人そうそうの杜 メディアリスト



## 事業所紹介 各種ニュース

そうそうの杜の各事業所や最新のニュースを動画でお届けします



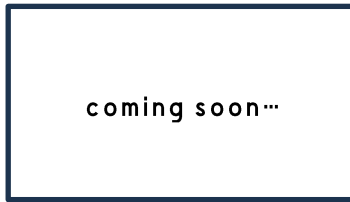
## 関宏之 『福祉の本質』

関先生を講師に招き福祉の本質に迫る福祉関係者必見の動画講座です



## 多田泰秀の プロ野球速報

独自の視点からプロ野球について熱く語り尽くします



『その人がその人らしく』を活かした動画企画を進行中!



発酵菜膳&café Kawasemi



杜の Shokudo



Lianの杜



おいしい国のアリス



杜のこうさてん



杜のごはん





## 寄付にご協力いただきありがとうございます

社会福祉法人そうそうの杜では、当法人の理念や事業、目的に賛同される方、事業活動へのご支援をいただける方に寄付をお願いしています。書面にて大変失礼かとは存じますがお力添えくださいますようお願い申し上げます。ご支援いただいた寄付金につきましては、大切に使用させていただきます。また、寄付をしていただいた皆様には機関紙「想創奏」をお送りします。

寄付の方法は、以下の郵便振替口座にて御振込いただきますようお願いいたします。今後ともご支援、ご協力いただきますように、法人として努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行 口座番号:00940-5-185986  
振込先(加入名):そうそうの杜

一般寄付(2023年7月3日~2023年11月2日にご支援頂いた方)

奥野 正継、金澤 久夫、金子 公子、倉川 俊介、佐々木 俊一郎、摺本 章一  
竹林 秀規、中島 伸治、中村 忠行、橋本 喜義・千鶴子、藤井 智恵美、森 貴宏、吉田 昭子  
今福社会福祉協議会、(株)ファーストステップ、城東地域活動協議会、(株)田中止鉄工所

(敬称略)

その他、地域の方々にアルミ缶・牛乳パック・おもちゃ、古本、中古家具等、様々な物品のご寄付を頂いておりますことを、心より感謝申し上げます。いつも本当にありがとうございます!!

---

## 社会福祉法人そうそうの杜

### ■ 法人本部

城東区鳴野東3-2-26 Tel/06-6965-7171 Fax/06-6167-2622

■ 杜のShokudo Lianの杜 杜のざっかやさん おいもの国のアリス  
(就労継続支援B型) Tel/06-6955-8080 Fax/06-6167-2622

■ 心 (自立訓練)

■ 地域生活支援センターあ・うん (相談支援事業)

■ 北部地域センター(大阪市障がい者就業・生活支援センター)

城東区鳴野東3-2-28

Tel/06-6969-8123 Fax/06-6167-2622

Tel/06-6955-9921 Fax/06-6167-2622

■ とことこっと (居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護)

城東区中央1-6-28 Tel/06-6167-7530 Fax/06-6955-8826

■ びんの郷

城東区鳴野東2-26-18

■ 1F 庵 (生活介護) Tel/06-6958-4745

■ 2F 伝 (児童発達支援・放課後等デイサービス) Tel/06-6958-4746

■ げんげん (生活介護)

城東区鳴野東3-18-5 Tel/06-6180-9670

■ 創奏 (生活介護)

城東区鳴野東3-3-1 Tel/06-6923-8929

■ Kawasemi (就労継続支援A型)

城東区中央1-6-29 Tel/06-6935-1111 Fax/06-6935-1911

■ 座座 (就労継続支援B型)

城東区鳴野東3-2-12 Tel/06-4258-6013

■ つむぎ館 (就労継続支援B型)

城東区鳴野東3-2-26 Tel/06-6180-6820

■ Prife (就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援)

城東区東中浜2-2-19 Tel/06-6923-8959

■ いま福の家 (生活介護/共生型通所介護/共生型介護予防型通所サービス)

城東区今福南4-15-33 Tel/06-6180-7399

■ 添 (短期入所)

城東区鳴野東3-2-5 Tel/06-6167-5395

■ 杜のこうさてん(大阪市つどいの広場事業)

城東区鳴野東3-3-3 Tel・Fax/06-6961-5505

